

小学校における学習指導と生徒指導の一体化 の視点からの教授行動分析

教育実践開発コース 在籍番号 u20c202a 名前 有本真秀子

課題意識

前期の考察から



教師一人が児童30人に対応することは困難を極める

教師の声かけの意図やその効果について分析し、よりよい教師の働きかけを明らかにする

様々なタイプや理解の差の中で、教師はどのように児童とかかわったり授業を構成しているのか



個々人に差や違いがあることを互いに受け止めて理解した上で、学習集団の一員として共に授業に取り組むことができる姿

児童の学びに影響を与える教師の役割

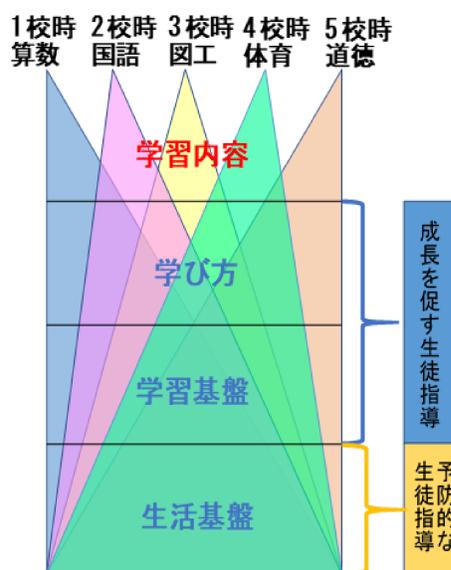
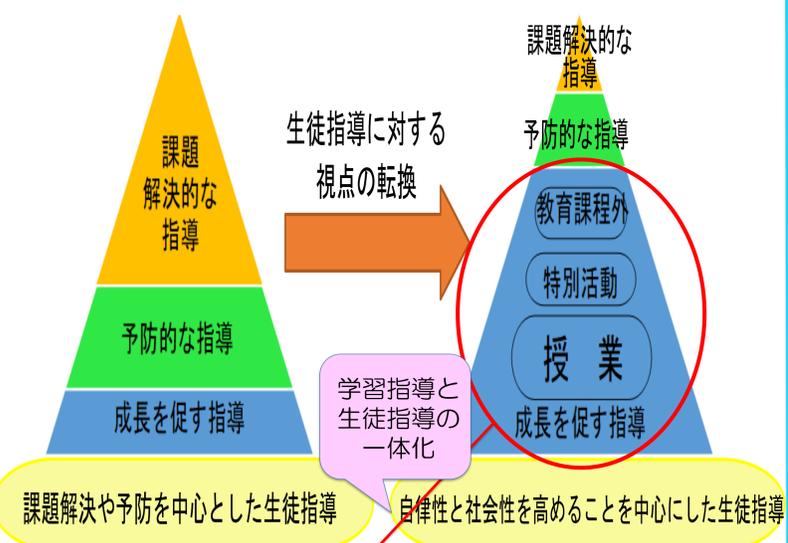


目的

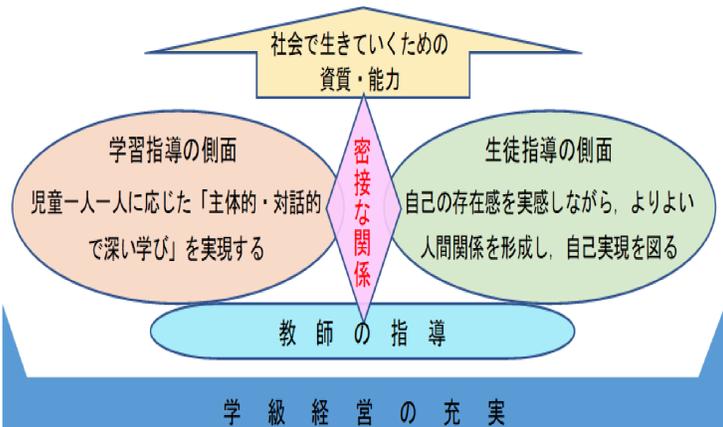
学習指導と生徒指導の一体化の視点から、小学校における教授行動を児童の行動との相互作用から具体的かつ客観的に分析し、教師の有効な働きかけを行動レベルで明確にすること。

定義とその意義

新潟市教育委員会・大阪府教育センターの資料より



資質・能力の3つの柱
①知識・技能の習得②思考力・判断力・表現力等の育成③学びに向かう力・人間性等の涵養



成長を促す生徒指導

自律性 自立 社会性

生徒指導の4つの視点



児童一人一人のよさや興関心を生かし、児童の学習意欲を高める

互いの考えを交流することで互いのよさについて学び、学習基盤が構築される

学習指導と生徒指導を相互に関連づけながら充実を図ること→学級経営の充実

取り組みを意識して継続する必要性

課題検証実習の成果 授業観察を通して



表裏一体



学び方の習得

学習基盤の構築



人間形成

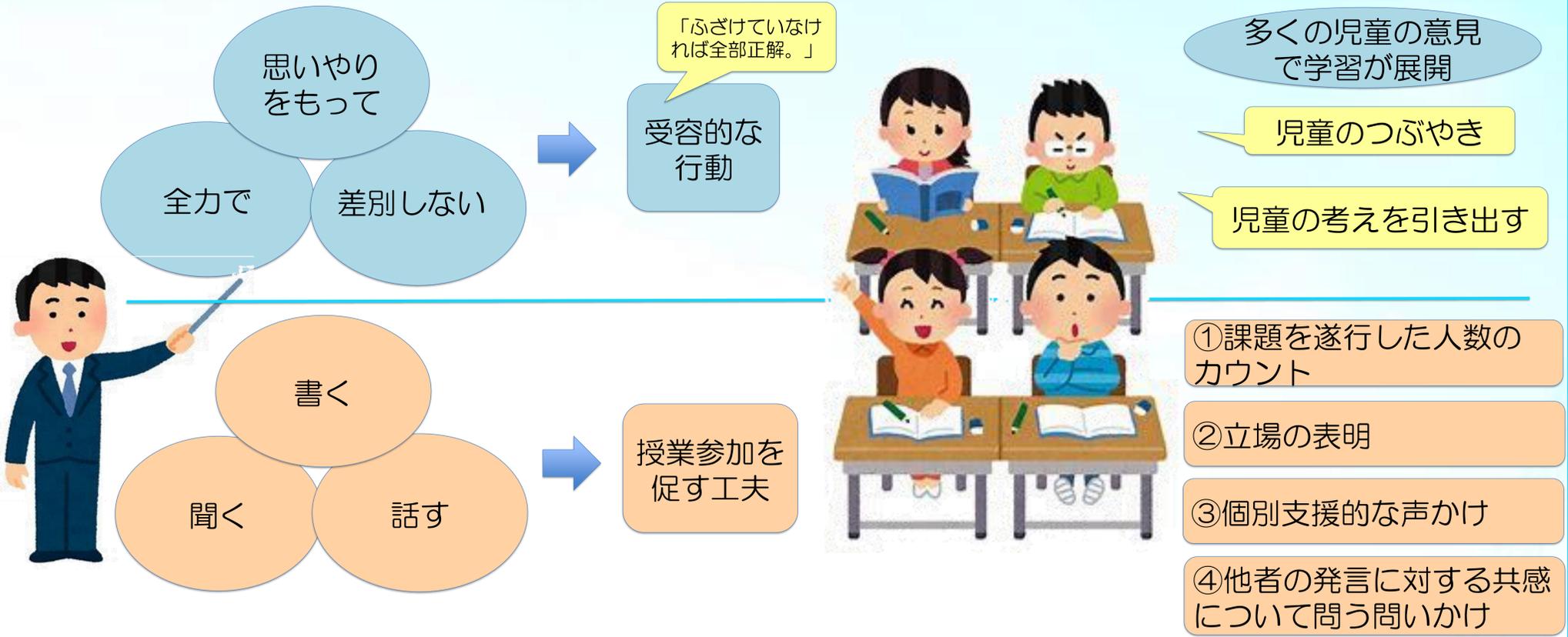
成長発達

教授行動の分析

授業者へのインタビューを踏まえて

- 研究協力者：6年2組の教師及び児童
- 日程：1月21日(木)道徳授業の撮影／
2月2日(火) A教諭へのインタビュー

- 手続き：教室後方に1台，抽出班の近くに1台の計2台のビデオカメラの設置／授業動画や発話記録を用いてインタビュー



今後の展望

学習指導と生徒指導の一体化の実現に向けて

二年次研究テーマ「小学校における学習指導と生徒指導の一体化を実現する授業づくり」

年間を通した教授行動の分析



学習指導と生徒指導の一体化の実現に向けた授業実践

教師と児童の信頼関係の形成の過程や時期ごとの教授行動の変化

本時の学習内容を網羅しつつ、生徒指導の視点についても意識したもの



- 研究協力者：2年2組の教師及び児童
- 日程：6月29日(火)算数の授業実践

- 手続き：教室後方に1台，抽出児の近くに2台の計3台のビデオカメラの設置／授業動画や発話記録をもとに、講じた手立ての有効性の考察